

読んだ本

(原作・安藤 忠雄 絵・はたこうしろう 小学館)

「いたずらのすきなけんちくか」

川崎市立西梶ヶ谷小学校二年 ひらた 平田 そう 早

そうぞうもつかない、よそうもできないことが書いてあった。それは、ランドセルをしようとしているつもりが、キュウリをしようしていた位おどろくことだった。たてもものの中にあるふしぎなへや。すべてのへやには、目つきがあるという思いこみをくつがえされた。何をしてもいいふしぎなへやで、ぼくはいたをならべてハシゴをかけて、昼ねをする場しよを作りたい。みんなは何をしたい？

ぼくは、しよう来けんちく家になりたい。頭をやわらかくして、たくさん絵をかこう。そうだん上手になろう。けんちく家になるために、ちがうい見をもらってそんちようしよう。この本から教えてもらったことだ。読んだらきつとみんなもゆめをかなえるためのヒントをもらえる本だ。

ぼくは、よい友だちが何人もいる。しゅみは同じ、でも考えはちがう。そんななかまとせかいにひとつの、たくさんさんのビツクリえ顔を作るたてものをたてたい。